

# たる

TAKUSUI  
No. 691

5

May. 2014

発行 (一財)兵庫県水産振興基金

兵庫の漁業人のための情報誌



鯉のぼり (加東市)

**平成25年度 のり共販 終了**

**トト活隊 結成！ ～香美町は「毎月20日は<sup>とと</sup>魚の日」～**

《今月の海上安全標語》～「もしもし カメよ カメさんよ♪…」～

水難事故の際に行われるCPR (胸骨圧迫・心臓マッサージ) は1分間に100回のテンポで行います。「どんなテンポ?」という貴方! 役立つ歌があるのはご存じですか? インターネット上では「アンパンマンの歌」、「ドラえもん」、「どんぐりころころ」などが紹介されていますが、私はこれですわ!

**CPR こんな時には カメの歌**

では、今月も安全操業で!

# ようこそ

どっちを向いている？

「ずっと真っ直ぐに」

（ようこそとは航海用語で「宜しく候の意。主に船を直進させるとききの号令として使われる」）

兵庫県信用漁業協同組合連合会 参事 **黒田 俊文**



「でや・でや・でや・でや」

威勢よく響くセリ人の声。

コーン・コーン。

シユモクという毛のないデッキブラシのような長い木の棒

でリズムミカルに販台を叩く音。

「ソクブリ・カネキ」

1200円でカネキという仲買人に競り落とされたという符牒。

その周りで、カゴから逃げ出した魚を追い回し、自分の持ってきたバケツに入れる悪ガキとそれを見て見ぬ振りの漁師のおっちゃん達。

おおよそ50年近く前の明石浦漁協での夏の或る日の昼市風景。

セリ人は、もう覚えていただいている方もめっきり少なくなりました。ただ私が私の親父で、そしてバケツを持った可愛い(?)子どもは何を隠そう小学校に上がる前の私。

活気に満ち溢れ大らかな「浜」の昼市は、かっこいいセリ人の親父が見られるのと、晩御飯のおかずが手に入りお婆ちゃんが喜んでくれるので、当時私の大のお気に入り遊び場だった。

それが私の漁業との関わり原点。

縁あって信漁連にお世話になってから32年の歳月が流れたが、就職当初の漁協系統信用事業は、まだその「浜」独特の人間味を色濃く残していた。

それが、時代の移り変わりとともに殺伐とした金融業務へと変貌し、そこに働く職員に対して求められることも、いつのまにか次元も質も遙か高いものになってきてしまった。

そうなると、どうしても仕事のスタンスとして向いている方向が偏ったものになってくるのも道理。

確かに金融業務は、「浜」・「県」・「国」単位ではなく、全世界的な基準で動いているのだから、致し方ないことではあるけれど、どこか違うような気がするな。

こういう時代であるからこそ、自分の向くべき方向は、「浜」である...と。改めてそんなことを考えた、連休明けのアンニュイな夕暮れ。

## CONTENTS

No.691 May. 2014

- 2 ようこそ
- 3 吉岡 修一氏が旭日中綬章を受章されました  
平成26年度 県功労者表彰
- 4 平成25年度 のり共販終了
- 5 トト活隊 結成
- 6 系統・漁協新人職員紹介  
「第16回浜坂みなと ほたるいか祭り」開催
- 7 JF姫路市の直売所がOPEN  
大きなアカイカと小さなホタルイカの料理教室
- 8 宗和 貴光さん(JF兵庫漁連)に感謝状
- 10 “命を守る運動”海上安全講習会担当者会議を開催  
海難事故をなくそう
- 11 兵庫JCC通信
- 12 旬に想う  
大輪田塾だより



### 表紙の言葉

### 「鯉のぼり」(加東市)

皁月の空を彩る“鯉のぼり”。

江戸時代に庶民の間で始まったとされるこの風習は、子供の健やかな成長を願うものとして、今も全国各地で行われています。

写実的で格調高い鯉のぼり「播州鯉」の産地である加東市では、市内観光施設であわせて10,000匹を目標に鯉のぼりを揚げる取り組みが行われています。写真はゴールデンウィーク中の同市の遊園地で、五月晴れの空を泳ぐ小さな鯉のぼりを多数見ることが出来ました。

なんだか海に沢山の魚が泳いでいるみたいです。タイやヒラメ、アジにカニなどの“鯉のぼり”を海の側に揚げて、豊かな海の恵みに感謝し大漁を願うというのも面白いかもしれません。

吉岡修一氏(前JF全国共水連会長)が  
**旭日中綬章**  
 を受章されました。



平成26年春の叙勲において、JF但馬組合長 吉岡修一氏(前JF全国共水連会長)が永年にわたり漁業振興に寄与されるとともに、東日本大震災における被災地漁業支援に尽力された功績により旭日中綬章受章の栄に浴されました。  
 伝達式は5月13日(火)、農林水産省7階講堂で執り行われ、同日、皇居にて天皇陛下に拝謁されました。  
 心よりお慶び申し上げますとともに、今後ますますのご健勝とご活躍を祈念いたします。



## 平成26年度 県功労者表彰

～水産関係から3名が受賞～

兵庫県は5月3日(土)に「平成26年度県功労者表彰」の受賞者の発表を行い、水産関係から3名の方が選ばれました。なお、授賞式は5月23日(金)に神戸市中央区の県公館で行われます。  
 心よりお慶び申し上げます。  
 受賞されました方は次の通りです。

【農林水産功労】

**松本 力** 様  
 (JF高砂代表理事組合長)



【農林水産功労】

**川越 一男** 様  
 (兵庫県漁業共済組合組合長理事)



【女性活動功労】

**井上二三枝** 様  
 (兵庫県漁協女性部連合会副会長)



## 平成25年度のり共販終了

### JF兵庫漁連のり海藻事業本部

今漁期最終の共販となる第14回乾のり入札会が、5月8日（木）、JF兵庫漁連のり流通センターにおいて行われ、約60名（35社）が参加しました。

上場枚数は2,046万枚で、共販金額は1億3,688万円（平均単価：6円66銭）となり、今漁期の兵庫県ののり共販結果は生産枚数13億2,664万枚（前年比112.6%）、共販金額110億2,843万円（前年比121.3%）となりました。（今漁期の結果は別表のとおりです。）



最終共販の挨拶に立ったJF兵庫漁連山田隆義会長は、「海の栄養塩の状態が良くなく、皆様の期待に応えられなかったのが残念。全国でも70億枚という生産枚数は、

今後の課題として残った」とされました。また、豊かな海を取り戻すための瀬戸内海再生法については、「5月下旬に国会へ法案提出の見込み」とされ、のり生産環境の回復に向けた運動が確実に進んでいることを話されました。



続いて、兵庫県海苔入札指定商組合松谷晃理事長（松谷海苔株式会社取締役社長）は、「全国的にノリが不漁ななか、兵庫は皆さんの努力が実を結びました。今後は全国70億台の生産枚数になることも多くなると予想されるが、兵庫らしい高品質なノリの提供を期待しています」とされました。

今漁期は、11月末の風波の影響により張り込みが約2週間遅れてのスタートとなり

ました。一部の地域では色落ちの影響があったものの、1月期の共販では上場枚数が2億枚を超える共販が開催され、概ね順調な生産が行われました。2月中旬以降には播磨灘全域で色落ちが発生し、その後大阪湾でも見られ、各地で減産・終漁が進みましたが、予定していた合計14回の共販（臨時共販を含め15回）を行うことが出来ました。



今年度最終共販・見付場の様子  
今年度より、衛生管理（毛髪混入防止）のため、衛生帽を着用しています

### 平成25年度 兵庫県乾のり共販結果

	共販年度	共販枚数	共販金額	平均単価
本県	平成25年	13億2,664万枚	110億2,843万円	8円30銭
	平成24年	11億7,804万枚	90億9,110万円	7円70銭
	平成23年	15億3,879万枚	144億8,796万円	9円39銭
全国	平成25年	70億5,647万枚	648億2,900万円	9円19銭
	平成24年	81億8,758万枚	702億0,913万円	8円57銭
	平成23年	77億6,852万枚	772億1,329万円	9円94銭



# とと活隊 結成!

とと  
~香美町は「毎月20日は魚の日」~

(一財)兵庫県水産振興基金



「とと活宣言」を行う浜上隊長



長組合長からジャンパーが手渡されました

その後、長組合長からノボリとジャンパーが手渡された。とと活隊は、海よりも広く、海よりも深く、この条例を町民に広げたい。香美町には国内有数の美味し

い魚がある。その後、長組合長からノボリとジャンパーが手渡された。とと活隊は、海よりも広く、海よりも深く、この条例を町民に広げたい。香美町には国内有数の美味し

美方郡香美町（浜上勇人町長）では、水産業を再活性化させ、地域経済を活気付けることを目的に、全国で初めてとなる「魚食の普及の推進に関する条例」（「とと条例」）を制定しました。ととにちなんだ10+10で毎月20日を「魚の日」としたことを受け、同町の漁業者、水産加工業者らがボランティアで取り組む「とと活隊」を結成し、その発足式が4月8日（火）香美町香住区の香住水産加工業協同組合で行われました。

住水産加工業協同組合長一仁組合長は「とと条例の役割は、水産業復興・魚食普及・地域活性化の3つであり、今後は10名の精鋭部隊である、とと活隊と、町会議員や小売店、観光業者、一般町民からなる賛助隊員103名で、漁業の町、香住を盛り上げていきたい」と挨拶をされました。



大勢の人で賑わいました



とと活隊のメンバーも参加

り、魚を食べよう、を合言葉に力いっぱい活動する」と「とと活宣言」を行いました。とと活隊は、今後、イベントの開催や旬の魚の食べ方などの情報をインターネットで発信するとともに、町の店舗などにノボリを立て、賛助隊員と一緒に活動していくとしています。4月20日（日）には「とと条例」施行記念イベントとして「ととフェス」が同組合にて行われ、鮮魚・加工品の量り売りのほか、レシピ付き料理の販売も行われ、但馬各地から訪れた家族連れら約700人で賑わいました。ニギスを使った「SKS」（既報・拓水No.677、2013年3月号）や、香美町ゆかりの海産物を使った「香住丼」の開発を次々に行っている同地区で、さらなる魚食推進を図っていくために結成された「とと活隊」の今後の活動に注目です。

## JF兵庫漁連

ふくいもとゆき  
**福井 基之**

東二見漁業協同組合 職員  
奈良県橿原市出身（現在は西宮市に居住）  
資格：社会保険労務士、行政書士、2級ファイナンシャルプランニング技能士  
趣味：ランニング、六甲縦走



漁業のことは何もわからず、また、東二見漁協で発生した内容についても知らされずに就職して、はや5か月が経過しました。

多数の大西さんや中村さんにも、少しずつ下の名前でも話しかけることができるようになってきました。

口は悪いが心の優しい漁師さんに鍛えられ、職員に支えられ、また、行政の方々や系統団体の皆さん、そして近隣漁協の関係者の方々に励まされ、ご迷惑をお掛けしながら、なんとか日々の業務に取り組んでいます。

組合員の皆さんが安心して沖に行けるよう業務に取り組むとともに、国家の重要な産業でありながら危険で不安定で、そして孤独な漁師の所得及び地位の向上に向けて微力ながら、応援させていただきますので、どうぞよろしくお祈りします。

新たに採用された職員をご紹介します

## 系統・漁協新人職員紹介

## 「第16回浜坂みなとほたるいか祭り」開催

約2万人の来場で賑わう



日本海に春を告げるホタルイカ漁。全国トップの水揚げ量を誇るJF浜坂の浜坂漁港で、4月6日（日）、「第16回浜坂みなとほたるいか祭り」が開催されました。

昨年は悪天候のため中止となり、2年ぶりの開催となったこの日は、曇り空でやや肌寒い日となりましたが、朝早くからのホタルイカを楽しもうと大勢の来場者が詰めかけて賑わいました。（主催者発表約2万人）

会場では、ホタルイカの串揚げやお好み焼き、しゃぶしゃぶなどのほか、「冷製ジオバスタ」が提供され、各売り場には長い行列が出来ました。メインステージでは、「わんこそば」ならぬ茹でたホタルイカを時間内に食べた量を競う「全日本わんこほたる選手権」が行われ、なかには3分間に100匹を食べた参加者もあり、多くの拍手を受けるなど会場は盛り上がりしました。

また、「クレーンで吊るほたるいかの釜揚げコーナー」は、クレーンに吊られた大きな籠にホタルイカ

を入れ、大釜で茹でるというもので、鮮度が良く茹でたてのイカが食べられるとあって、たくさんの方が集まったほか、網から上がったすぐにパック詰めをした「ほたる」の販売も行われ、生のホタルイカを手に入れる良い機会となり、多くの来場者が買い求めていました。

JF浜坂では、今後も多くのの人にホタルイカの美味しさを知っていただけたらと思います。



茹で上がったホタルイカに歓声が上がりました



「ほたる」は人気でした！

JF 浜坂

# JF姫路市の直売所がOPEN! 〜同JF青壮年部が主体となり運営〜

(二財)兵庫県水産振興基金

4月13日(日)、姫路市妻鹿漁港にあるJF姫路市(中澤 卓生組合長)事務所前に「姫路海産物とれとれ直売所」がオープンしました。

毎年1月に姫路市大手前公園で行われていた「姫路とれとれ海産物まつり」が今年限りで終了したため、JF姫路市漁協青壮年部(船越 孝一郎長)は、妻鹿に場所を移し、これまでのイベント名をそのまま利用して、自分たちが獲ってきた魚の直売所を作りました。臨時に設けられたテントでは、メイタガレイ、チヌ、コチのほかニシガイなど活魚・鮮魚が並べられ、同部員らは調理法を紹介しつつ、威勢のよい声をあげていました。初

日(13日)の来場者はやや少なかつたものの、この日(27日)は口コミの広がりもあり、途絶えることなく来場する人を見て、手ごたえを感じてい



るようでした。毎週日曜日には近くの家島とれとれ屋市が開催されており、またひとつ妻鹿に水産物販売の拠点が出来ました。出来るだけ青壮年部の全員が参加するようにし、第2・4日曜日の8時から販売していますので、近くに来られた際は是非お立ち寄りください。

**姫路海産物とれとれ直売所データ**  
姫路市白浜町字万代新開甲912-8  
(JF姫路市事務所前)  
営業日・毎月第2・4日曜日  
営業時間・8:00〜売り切れまで

## 大きなアカイカと小さなホタルイカの料理教室

〜シートクラブの旬の魚を楽しむ教室〜

### JF兵庫漁連



室は始まり、アカイカのステーキ、ホタルイカのマリネ、干しホタルイカご飯と素材の味を味わえるシンプルな料理になりました。

参加者は、生から調理した旬のホタルイカと、目の前でさばかれたアカイカのあまりの美味しさに目を見張り、切り分けられたアカイカを喜んで持って帰られました。

SEATIC LUBでは、今後もこのような兵庫の魚のおいしさや、楽しさを消費者へPRし魚食文化が継承され兵庫の魚の消費を拡大していく取り組みを企画して行きます。



解体される大きなアカイカに注目が集まります

## 宗和 貴光さん（JF兵庫漁連）に感謝状 〜明石沖での人命救助に協力〜



（一財）兵庫県水産振興基金

とですが、ジェノバラインに何故乗っておられたのですか？

宗和氏：「淡路島のJFで開催予定の海上安全講習会打ち合わせで、CPRやAED（自動体外式除細動機）の体験講習の話をしに行くところでした。」

— CPR体験の打ち合わせに向かう途中で遭遇されるとはすごい偶然ですね。その時の状況を詳しく聞かせてください。

宗和氏：「明石発15時00分の連絡船ジェノバラインに乗って淡路島へ向かいました。出港して間もなく、乗船していた男性が落水したと船内は大騒ぎになりました。運行を中断し旋回したので、甲板に出て、機関長と乗客ら数名で、ボートフックを使って引き揚げました。」

— ボートフックで救助を？

宗和氏：「船長の判断だったようです。飛び込むと二次災害の危険もありますから。フックはズボンを通し、ベルトと一緒に掛けていたので何とか引き上げることが出来ました。」



贈呈後の記念撮影

（前列左から 宗和さん、小野さん。後列左から 漁船長、赤谷機関長、岡田消防長）

— それからどうされましたか？

宗和氏：「機関長が『大丈夫ですか！』と声を掛けたのですが、すでに意識も脈もありませんでしたので、機関長は『死んでどうする！』と声を出し、直ちにCPRを開始しました。私は、現在、JFや系統5団体などで行っている、命を守る運動「海上安全講習会」の業務を担当しており、CPRを一人でやり続けるのは困難な

— このような現場は初めてですか？

宗和氏：「初めてです。海上安全講習会で人形を使ったCPR・AED研修は行ったことはあるが、実際に事故現場に遭遇し、実践したのは初めてでした。」

4月28日（月）、明石市藤江の明石市消防本部において、海難救助に協力したJF兵庫漁連指導部統括代理 宗和 貴光さんをはじめ4名に岡田 教宏 同本部消防長から感謝状が贈られました。

これは4月9日（水）15時05分頃、明石港南の約1キロメートル沖で連絡船から男性が転落する事故がありました。同船に乗り合わせていた宗和さんから乗客と船員が男性を救助し、心臓マッサージ（以降、CPR）を行いつつ港へ搬送、救急車で運ばれ一命を取り留めたというものです。感謝状を手携によって尊い命を救うことが出来たと、感謝の意を示されました。

◆宗和さんに救助に関するインタビューをしました。

— 今回、救助に協力されたこのこ

ことを知っていたので、機関長に『代わります』と申し出ました。他の乗客も手伝って、3名で交代しながら行いました。男性のアゴが動いたと誰かが言ったようですが、男性の意識は無かったのでそのまま続けました。港に引き返してすぐに到着した救急隊員に男性を引き渡す



講習会の知識だけでしたが助けることが出来て良かったです。それと、同じようにCPRを行った男性乗客が一人おられ、とても心強かったです。その方は処置後、名乗らずに立ち去られました。この紙面をお借りしてお礼を申し上げます。」

今回は「助けたい」という思いが一つになつて、「救助の連携」と「とつさの判断力」につながったのだと思います。第一発見者の高校生 小野寿斗さんは、怪我のため松葉杖を使っているにも関わらず、男性が転落してすぐに躊躇なくブリッジに上がり船長に連絡したため、(株)ジェノバライオン 漁 光弘船長はすぐさま船を旋回し救助に向かうことが出来ました。発見後、飛び込んで救助する方法もありましたが、漁船長はボートフックによる救助を選択したので、救助後すぐに港へ向かうことが出来ました。同社 赤谷雅司機関長は、明石市消防署の上級市民救命士講座を受講しておられ、適確かつスムーズな救命措置を行うことが出来ました。宗和さんはCPRの知識があり、もう1名の乗客と赤谷機関長の3人が交代しながら継続的にCPRを実施し、落水から港へ帰港するまで約15分で救急隊に引き渡すことが出

来ました。

「もしもの時」の行動は、普段から何をするべきかを意識しておく必要があります。これには、救命に関する講習会等に参加して「知識」を深め、訓練を「経験」して手法を学び、実践する「勇気」を得ることで発揮されるものではないでしょうか。

現在、JF・系統団体が神戸運輸監理部、神戸や姫路の海上保安部など関係機関の協力を得て講習会を行っており、昨年からはライフジャケット着用推進を図るとともにCPRやAEDの講習も行っています。是非とも海上安全講習会を受講して「もしもの時」の備えていただきたいと思えます。



岡田消防長から感謝状を受け取る宗和さん

事故を未然に防止するため

## “命を守る運動” 「海上安全講習会」

を県下各地で開催しております。

～講習会の開催申込みは下記団体まで～

この取組みは、平成22年よりJFや関係団体を対象に行っており、海難事故対策・ライフジャケット着用推進等の内容で開催しています。(この模様は本誌「拓水」で適宜紹介しています。)

講習会開催についてのお問い合わせは

**JF兵庫漁連指導部まで TEL 078-940-8013**

## “命を守る運動” 海上安全講習会 担当者会議を開催

～海難事故“<sup>ゼロ</sup>0”を目指して…～



後を絶たない海難事故を未然に防止するため、現在、県下各地で開催している「命を守る運動」海上安全講習会。

この講習会では、海難事故事例とその対策、ライフジャケット着用推進やそのメンテナンス実習のほか、ライフジャケットを着用して海に飛び込み、その性能を体験する「サバイバル訓練」等を行っており、平成22年に始まってから、これまで延べ約2,300人が受講されています。

4月24日(木)には、水産会館で、国土交通省神戸運輸監理部、神戸・姫路の各海上保安部、JF兵庫漁連をはじめとした系統5団体による担当者会議が開催されました。会議では、昨年から実施している CPR (胸骨圧迫・人工呼吸) や AED 実習を今後も取り入れていくことや、もっと多くの漁業者に参加してもらうための方策や講習会の進め方などについて活発な意見が交わされ、今後さらに「海難事故“<sup>ゼロ</sup>0”」を目標に、講習会の充実を図っていくことが確認されました。

今年度も県内の各地区の JF へ出向いて、講習会を行ってまいりますので、ご希望のある JF は、是非、下記連絡先までお電話ください。

### “命を守る運動”「海上安全講習会」

主催 漁業協同組合・JF兵庫漁連・共水連兵庫県事務所・兵庫県内海漁船保険組合・(公財)ひょうご豊かな海づくり協会・(一財)兵庫県水産振興基金

協力 神戸運輸監理部 各海区の海上保安部  
関西小型船安全協会

講習会開催についてのお問い合わせは  
JF兵庫漁連(指導部)まで

TEL 078-940-8013

# 海難事故をなくそう!

## ライフジャケットを 着用しよう!

先日の新聞で、宮崎県においてライフジャケットを着用していた漁業者が、無事に生還した報道がありました。

「もしも」の時のため、是非、着用してください。



固型式ライフジャケット  
モデル: 兵庫県漁業協同組合連合会  
宗和 貴光さん

## ～安全をサポート～ 浮力合羽はお持ちですか?

JF兵庫漁連が開発したもので、浮力は十分あります。

※ライフジャケットではありませんので、一人乗りの漁船の場合、ライフジャケットを着用してください。



浮きます!

ライフジャケット・浮力合羽の購入は  
所属JFかJF兵庫漁連資材部(078-942-9272)までお問い合わせください

## JA兵庫西

## 直売所で兵庫県産小麦粉PR

JA兵庫西と神戸市の(株)増田製粉所は3月30日(日)、同JA直売所「旬彩蔵書写」(姫路市書写)で兵庫県産小麦粉のPR販売を行いました。これは、来店客に地元で生産された小麦を味わってもらい、地産地消への理解を深めてもらうのが狙いです。

同製粉所では「ミナミノカオリ」「ふくほのか」など県産小麦60%以上使用した小麦粉「北野坂」「麺司」や、「シロガネコムギ」を主原料にした県産小麦100%の薄力小麦粉「宝笠異人館」を、兵庫県産小麦粉シリーズとして昨年からの販売しています。小麦はJA兵庫西管内1,100ヘクタールで生産されたものを使用し、兵庫県認証食品にも認定されており、今後さらに、県産小麦の使用率を高めることを目指しています。

店頭では、同JAのTACも参加して、来店者にパンやマドレーヌなどを無料配布し、県産小麦の味と食感を実際に楽しんでもらいました。同JAの小寺 悟司営農指導員は「生産者と実需者、消費者が直接ふれ合う機会を増やすことで繋がりが広がる活動を、今後も取り組みたい」と話しました。



パンやケーキの試食で県産小麦をPR



会場は笑いに包まれ楽しく学びました

## 「ひょうご消費者セミナー」

## 落語で学ぶ

## “だまされないコツ”を学ぶ

兵庫県生協連では、3月3日(月)、兵庫県民会館にて消費者支援機構関西(KC's)、ひょうご消費者ネット、生活協同組合コープこうべ、兵庫県生協連の4者共催の「ひょうご消費者セミナー2013」を開催しました。このセミナーは、新しい制度「集団的消費者被害回復制度」について理解を深めるとともに、幅広い世代の消費者に悪徳商法のさまざまな手口を紹介し、楽しみながら「だまされない」コツを学ぶもので、100名が参加しました。

冒頭、主催者4団体を代表し、兵庫県生活協同組合連合会 三宅 康平専務理事が挨拶。

続いて、今取り組んでいる事案や昨年成立した集団的消費者被害回復訴訟制度について、NPO法人消費者支援機構関西(KC's)検討グループメンバー 浅田 奈津子氏、NPO法人ひょうご消費者ネット 副理事長 亀井 尚也氏による活動報告が行われました。

その後、落語家の林家 染二さんが「知ってビックリ！知って安心！愉快的悪質商法撃退講座」をテーマに講演。だまされないための消費者トラブルの事例を紹介、「知ること」の大切さや「健康」「孤独」「お金」の「3K」への不安につけこむ高齢者被害についてお話されました。続いて行われた落語「かわり目 悪質商法版」では、ユーモラスな夫婦の会話のなかから悪質商法被害にあわなないためのポイントを楽しく学びました。

参加者からは、「いろんな詐欺の手口があることが分かりました」「楽しく“知る”ことができて、友人にも伝えようと思いました」「講演のあとの落語で、悪質商法のパターンが印象づいて良かったです」などの感想が寄せられ、充実した内容のセミナーとなりました。



講演される林家 染二さん



# 旬に想う

写真と文  
遊方子

## さアどうするどうする

◆「どの季節が好きですか」と聞かれたら返答に困る。春は桜のあや衣、秋は紅葉の唐錦…と、天然の美は限りなく麗しく、春夏秋冬それぞれの趣きがある。その時々、美しさを目いっぱい見せ、生命の息吹きを感じさせて限りが無い。どの季節も好きである。が、近年は美しさに陰りが感じられ、根底から崩壊の危機が迫った気がしてならない。開発が進んで、今や人跡未踏の地は探し回っても見つからず、自然の美しさはズンと後退し、殆どが人工の加わったものに置き換えられ、全く趣きの無い状態になったようだ。何処へ行っても、同じような風景になったように思える。態々、訪ねても空しさを感ずるのである。

◆村おこしと称して、静かな山里が俄（にわか）都市に変貌する。超奇抜な建物が建てられ、人集めのための大々的イベントを開催し大勢を呼び寄せる。現代社会は人が動けば車が動き、汚物を吐き出して自然をきつく痛めつける。静かだった山村に「山を汚すな／自然を守れ」などの看板が立つ。人が集まれば排泄物と一緒にゴミもやって来る。来た時よりも美しくしたいと思っても、飲み終えた空き缶はどう考えても邪魔つけであり、此の目障りをどこへ捨てるか。無ければ購わぬものをと、自動販売機存在を恨めしく思ったりしている。

◆「今は昔」と書き出せば、どんな荒廃した残酷なイヤな事も、美しい話になるのが童話の世界である。昔の山里には、そんな嬉しい光景が満ち溢れていた。小さな日だまりに四季の花が揺らぎ、緑の中に虫たちの饗宴が見られた。そうした景色を思い出し懐かしんでも、所詮は懐古趣味に過ぎない。道路端に転がる空き缶や弁当殻の樹脂製品、煙草のケースや吸い殻。側溝に捨てられたビニール袋から犬の糞が転がり出る。日常茶飯事となったこれらは何ともならぬ現実であり、腹を立てて見ても、所詮はゴマメの歯軋（はぎしり）りなのである。

◆日本の先行きが透明感を失い、国力は落ち人口は減少、財政は傾いて回復の見込みが見え難い。全く不透明でお先真っ暗な感じで、モノが溢れているのに何故か幸せ感に乏しい。震災・津浪による原子力発電所の壊滅は、周辺一体へ核物質を撒き散らした。周辺住民は震災の大被害に加え、他所への避難を余儀なくされ、困窮のどん底へと追い込まれた。大きな負担を抱え、荒れた郷里は破壊前の姿に戻らず、悲しみは永遠に消えない。原子力に頼った暮らしは、環境破壊の危険と背中合わせだった。発電に欠かせぬ燃料が、地球そのものをも破壊し壊滅させる、恐ろしい牙を剥いて迫ってくる。さアどうするどうする不。

# 大輪田塾だより

## 水協法講習

4月の大輪田塾は22日（火）に「水協法概要」と題し、県水産課漁政班組合指導担当 望月松寿主幹と都倉由樹主査を講師に招き開講しました。

講義前半は、協同組合の歴史と株式会社・NPOとの違い、農協との比較などについて学びました。後半では同法の条文について、途中に質問を織り交ぜながら解説を受け、法律の中に盛り込まれている協同組合の理念についても学び、理解を深めることができました。



大勢の塾生が受講しました

▶講義前半を担当した望月主幹

### この後の大輪田塾

日時：平成26年5月27日（火）13時30分から水産会館にて  
講義：「漁船法概要」  
「漁船保険概要」